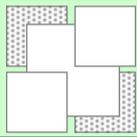


第1部 まちの現状

まちの現状



まちの現状

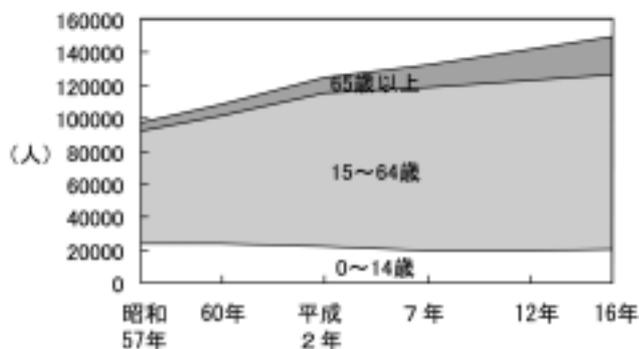
1 麻生区の変遷

- ・麻生区は本市の北西部、多摩丘陵の一角に位置し、片平川や真福寺川などの河川が丘陵の奥深くまで幾筋も入り込んだ丘陵と谷戸で構成されています。区域全体が尾根線によって囲まれており、地形的に他の地域から独立した地域を形成しています。以前は、多摩丘陵の山懐に抱かれた農村地帯でした。
- ・昭和 33 (1958) 年に日本住宅公団による土地区画整理事業により百合ヶ丘団地が開発され、この団地を核として周辺に民間開発の住宅地が広がり始めました。
- ・昭和 49 (1974) 年に小田急線が多摩ニュータウンに延伸するのにあわせ、柿生や栗木など小田急多摩線沿線を中心に大規模な土地区画整理事業が行われました。その後も多くの地区で土地区画整理事業や民間による住宅地開発が行われ、東京圏のベッドタウン化が進みました。
- ・新百合ヶ丘駅周辺では昭和 52 (1977) 年に大都市地域における住宅地等の供給の促進に関する特別措置法による特定土地区画整理事業がスタートし、地域の中心的な市街地として、公共公益施設の整備が行われました。
- ・これら居住環境の整備に伴い大規模住宅団地の開発も相次ぎ、麻生区が誕生した昭和 57 (1982) 年以降人口の増加が続いています。

2 人口動態

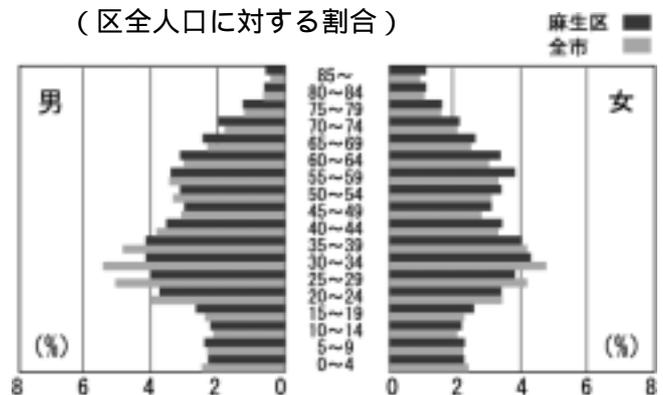
- ・麻生区が誕生した昭和 57 (1982) 年には約 97,700 人であった人口は増加を続けており、平成 17 (2005) 年には約 153,100 人となっています。
- ・年齢別の人口構成は、全市平均と比べ 50 歳以上の人口割合が高くなっており、20 歳から 40 歳未満の男性の人口割合が特に少なくなっています。
- ・町丁別の人口増減率をみると、比較的新しく開発された小田急多摩線沿線を中心に人口の増加がみられます。一方で、百合ヶ丘や白山など開発以降時間が経過した住宅団地が立地する地区等では、人口の減少がみられます。

人口推移（年齢 3 区分別）



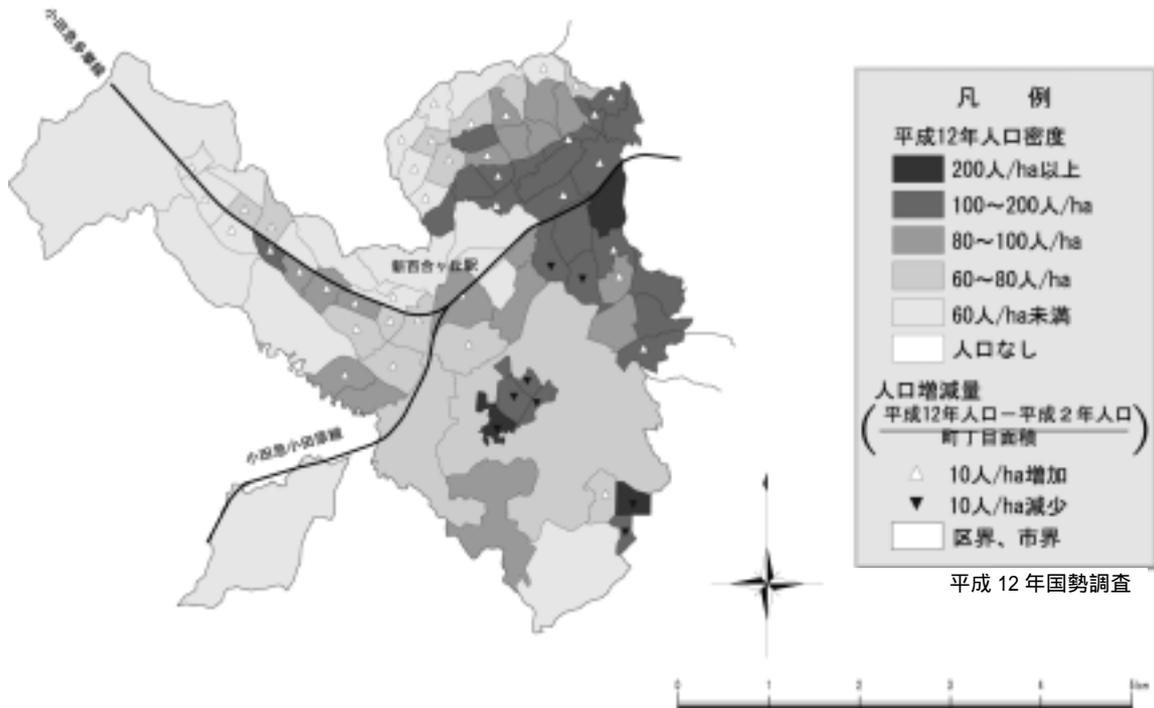
平成 16 年川崎市統計書より

5 歳階級別男女別人口構成
（区全人口に対する割合）



平成 16 年川崎市統計書より

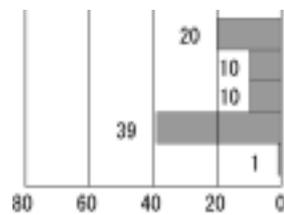
町丁別人口密度 + 増減図



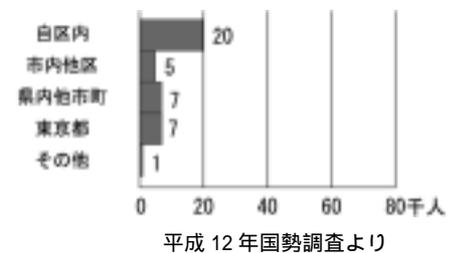
3 麻生区の産業

- 麻生区の就業状況をみると、区内に居住する従業者及び通学者約 80,000 人のうち、就業先や通学先が区内にある人は約 20,000 人、区外にある人は約 60,000 人となっており、区外に通勤通学する人が圧倒的に多く、特に東京都に就業先や通学先がある人が多くなっています。一方で、区内に就業先や通学先がある約 40,000 人のうち、区外からやって来る人は約 20,000 人となっており、区内に居住する人と区外からやって来る人がほぼ同数となっています。区内の就業先や通学先の数に比べて、区内に居住する従業者及び通学者が約 2 倍多く、典型的な郊外住宅地の特徴が表れています。
- 産業大分類別従業者数の割合をみると、卸売・小売業、サービス業、医療、福祉の割合が高くなっています。全市平均と比べると教育、学習支援業、医療、福祉、卸売・小売業等の割合が高くなっています。

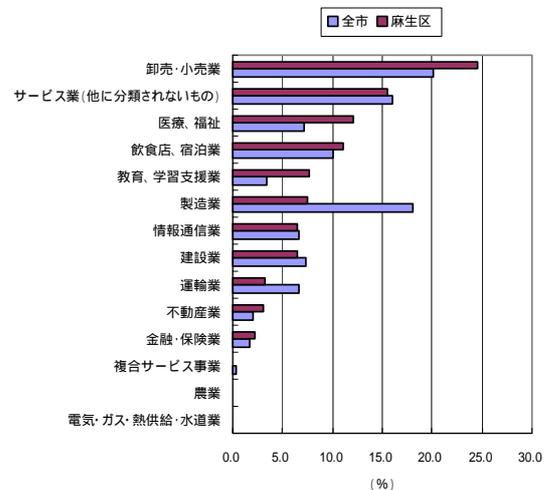
区内に常住する従業者・通学者の従業・通学地別の人数 = 80,000 人



区内での従業者・通学者の常住地別の人数 = 40,000 人



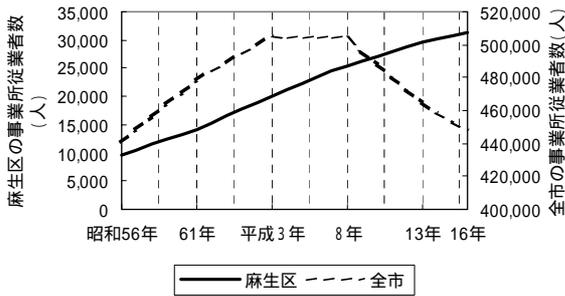
産業大分類別従業者数の割合



平成16年事業所・企業統計調査

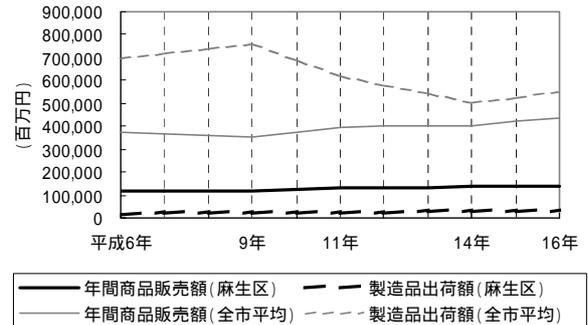
- ・区内の事業所従業者数は、全市が平成8（1996）年以降減少しているのに対し、麻生区では増加を続けています。平成16（2004）年には約31,400人となっており、全市の約7%を占めています。
- ・年間商品販売額は、全市平均が平成9（1997）年以降、若干の増加傾向にあるのに対し、麻生区は横ばい状態で推移しており、平成16（2004）年には約1,400億円となっています。製造品出荷額等は、横ばい状態で推移しており平成16（2004）年には約300億円となっています。

事業所従業者数の推移



事業所・企業統計調査より

年間商品販売額と製造品出荷額等の推移

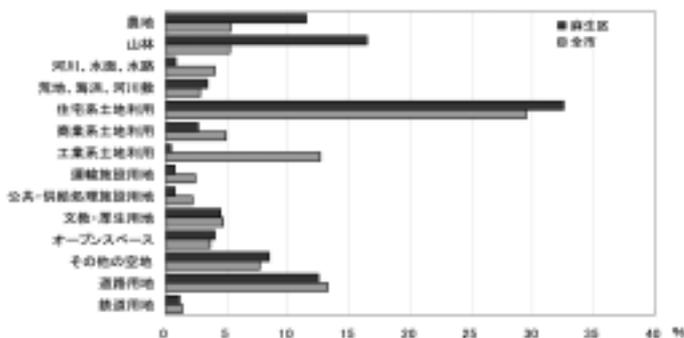


商業統計調査及び工業統計調査より

4 土地利用からみる麻生区

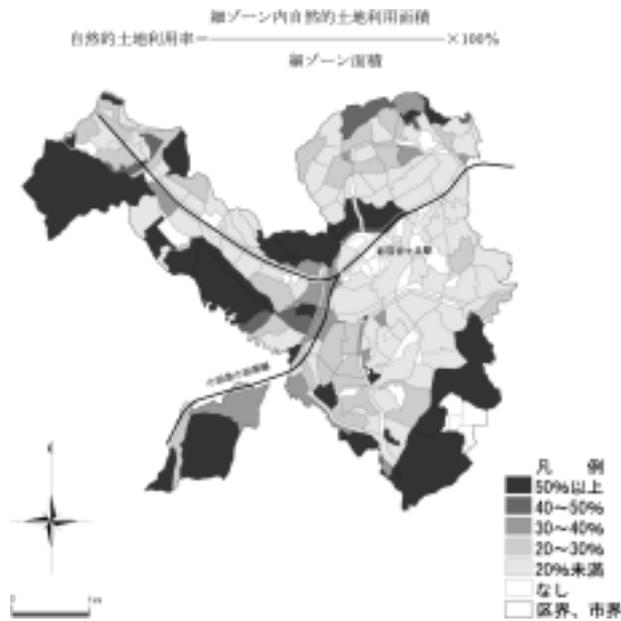
- ・麻生区の面積は約20.39k m²で、その土地利用面積の構成をみると、住宅系土地利用の割合が最も高く約33%となっています。全市平均と比べると農地や山林、住宅系土地利用の割合が高く、工業系土地利用割合が特に低いという特徴があります。
- ・用途別に土地利用率をみると、黒川や岡上、早野、王禅寺等の市街化調整区域となっている地域では自然的土地利用の割合が高くなっています。また、区の中央部を除くと市街地内にも多数の小規模な農地が分散しています。
- ・商業系土地利用は、新百合ヶ丘等の駅周辺や主要な道路沿道などに集積がみられます。
- ・これらを除く地区では、住宅系土地利用が大きな割合を占めています。

土地利用の構成率



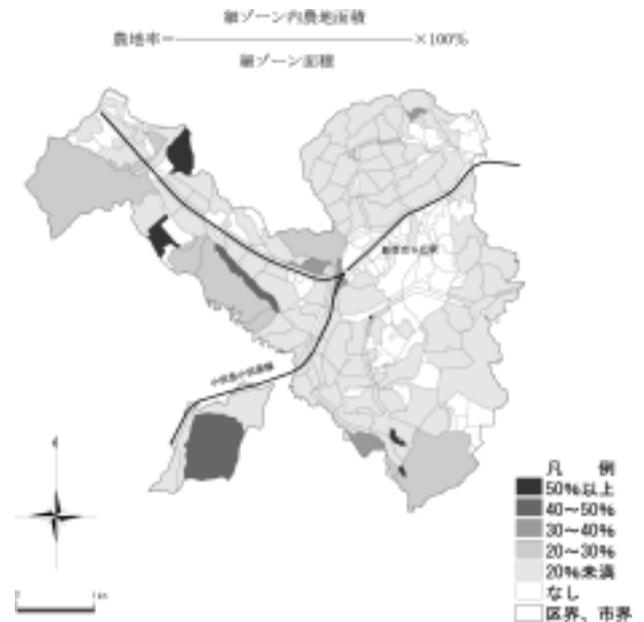
平成13年都市計画基礎調査より

自然用地率図



平成 13 年都市計画基礎調査より

農業用地率図



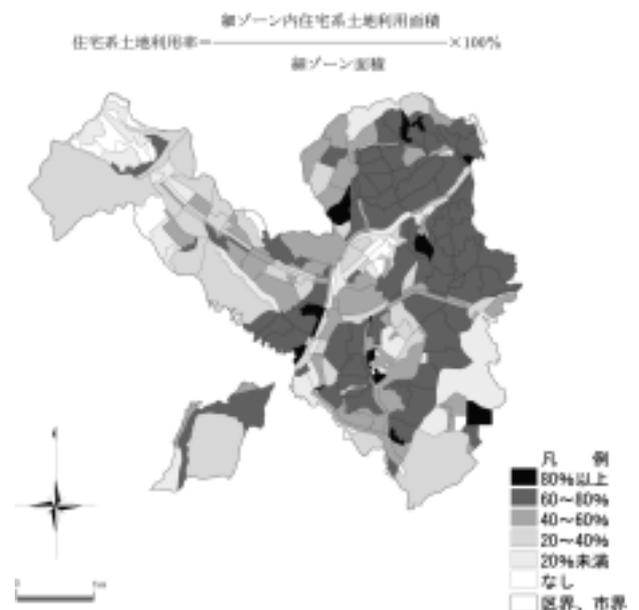
平成 13 年都市計画基礎調査より

商業用地率図



平成 13 年都市計画基礎調査（一部修正）より

住宅用地率図



平成 13 年都市計画基礎調査より

5 道路と住環境

- ・川崎市の都市計画道路は、103 路線、総延長約 307km となっています。このうち完成延長は約 190km で、整備率は約 62% となっています。一方、麻生区の都市計画道路は、総延長約 42.710km で、完成延長約 16.911km、整備率約 40% となっています。

- ・麻生区には、木造率 60%以上、かつ建物密度 80 棟/ha 以上の木造住宅が密集する集中する地区はありません。
- ・区内の面的市街地整備が行われた地区では道路基盤が整っています。しかし、面的整備が行われていない丘陵地では、狭あい道路が広がっており、課題を抱えた地区もあります。

都市計画道路区別進ちょく率表
(H18.4.1 現在)

区	計画延長	完成延長	整備率
川崎区	87,340m	62,235m	71%
幸区	22,680m	13,906m	61%
中原区	32,320m	19,417m	60%
高津区	38,110m	22,799m	60%
宮前区	42,190m	35,201m	83%
多摩区	41,630m	19,701m	47%
麻生区	42,710m	16,911m	40%
計	306,980m	190,170m	62%

木造密集市街地図



道路網図

